

6 果 樹

(1) 活動の重点指導事項

- ア 日本なしの黒星病対策による市場への安定供給、「加賀しずく」の生産拡大
- イ ぶどう「ルビーロマン」の生産拡大と商品化率の向上

(2) 活動の経過と実績

ア 日本なし

5月下旬以降のまとまった降雨が続いたことから果実肥大が良好となり、共販出荷量は891t(H30)から1,087t(R1)に増加した。

(ア) 黒星病の防除対策

- a 本年は、生育初期から一部で発生が認められたものの、各種対策（春季・秋季防除の徹底、罹病部の徹底除去、落葉の粉碎・耕起処理など）の実践により黒星病の発生が少なかった。
- b 薬剤・耕種的防除の徹底を図った。特に落葉処理による伝染源の除去徹底を指導した。

(イ) 「加賀しずく」の生産拡大

- a 本年は8月下旬の多雨低日照の影響により低糖度果が発生し、特に着果過多樹や高接ぎ樹を中心に多発したが、出荷量は3.6t(H30)から5.5t(R1)に増加した。
- b 適正着果や苗木管理を巡回指導するとともに、栽培講習会を開催し、栽培法、品種特性の習得促進に努めた。
- c 本年は奥谷選果場での集出荷が2年目となったが、今後の出荷量の拡大に向けて、奥谷、小塩辻2カ所での選果実施に向けた検討を進めた。

イ ぶどう「ルビーロマン」

- (ア) 樹勢、棚下の明るさの重要性を啓発するとともに、着房数制限やコンパクトな房づくりを目指す「腹八分目運動」を徹底した。
- (イ) 着色促進のための「環状はく皮処理」と、縮果症軽減のための「クールコート処理」などの新技術の実証と普及に努めた。また、熟練農業者のノウハウを「見える化」した学習支援システム（問題集）の活用やアプリを使った棚面の明るさ管理等により、若手生産者など、技術未熟者の技術向上を図った。
- (ウ) 7月中旬～8月中旬の高温の影響により果粒軟化、8月末の大雨の影響により三日月裂果が多発したものの、着色促進により出荷房数、商品化率は5,518房、44%(H30)から5,699房、44%(R1)と増加した。

ウ 国造ゆず

- (ア) 果実品質向上、隔年結果防止に向けた摘果やせん定等の実証と普及に努めた。
- (イ) 国造ゆずの一元集荷、搾汁に向けて、生産者を一本化した協議会の設立を働きかけた。



国造ゆずのせん定講習会
(能美市和気町ゆず団地)

管内の果樹の生産販売状況

	産地名	栽培面積 (ha)	農家数 (戸)	生産量 (t)	単収 (kg/10a)	共販状況			
						農家数	出荷量 (t)	販売額 (千円)	
なし	加賀	57.9	55	1,460.0	2,229	48	1,087	356,942	
加賀しずく	加賀	2.3	41	7.0	—	17	5.5	4,357	
ぶどう	加賀	22.5	14	250.0	1,111	12	31.1	50,602	
	小松	5.7	5	57.0	1,000	4	1.2	11,605	
	ルビーロマン	加賀	1.3	14	4.7	—	11	4.7	34,223
		小松	0.6	4	1.2	—	4	1.2	11,605
いちじく	川北	0.9	9	9.1	1,011	8	4.7	3,590	
かき	川北	1.0	13	5.0	500	9	2.4	417	
ゆず	能美	1.4	7	13.6	750	—	—	—	

※生産量は推定値を含む。令和2年3月現在(南加賀農林総合事務所調)



加賀しずくの苗木定植指導
(加賀市奥谷梨団地)



なしの黒星病対策指導
(加賀市奥谷町)



加賀と小松の若手農家を対象とした
ぶどうのジベレリン講習会
(加賀市豊町ぶどうほ場)



アプリを使ったルビーロマンの
棚面の明るさ指導
(小松市今江町ぶどうほ場)